

ひなん施設だより発行について

成瀬台小・中学校避難施設運営会議議長 谷田部 靖治

一昨年（2020年）9月に「大災害に備えるためのアンケート」を実施し、昨年（2021年）1月と3月にアンケート結果を報告いたしました。また、1,000件におよぶ自由記述欄を分析したところ、関心が高かった、防災への備え、避難施設や防災訓練に関する疑問や要望などについて、定期的に会報「ひなん施設だより」を発行して、皆さんと情報を共有し、防災対策を共に推進してまいりたいと思います。創刊号の今号では、地震対策の対象になる多摩直下地震とはどのような地震かを取り上げました。次号からは、この地震から命をどう守り被害を最小限にするか、避難施設での生活はどのようなになるのか、避難施設に行かず自宅で在宅避難をするにはどうしたらよいか、などについてお届けいたします。この「ひなん施設だより」をご家庭で保存して頂き、「東京防災」とあわせて活用いただければ幸いです。

～ 多摩直下地震と町田市の被害想定について ～

よく耳にする「今後30年以内に70%以上の確率で発生するといわれている首都直下地震」には、町田市が被害想定を行っている「多摩直下地震」（マグニチュード（M）7.3）も含まれています。多摩直下地震により町田市内は震度6強から6弱の揺れと想定されています。東玉川学園・成瀬台を含む町田市南部地域は震度6弱になると想定されていますが、立地により更に強く揺れる場合があります。多摩直下地震が発生した場合に、町田市内で発生する被害想定を町田市地域防災計画（2020年度修正版）よりご紹介します。

想定される規模と揺れ（震度）

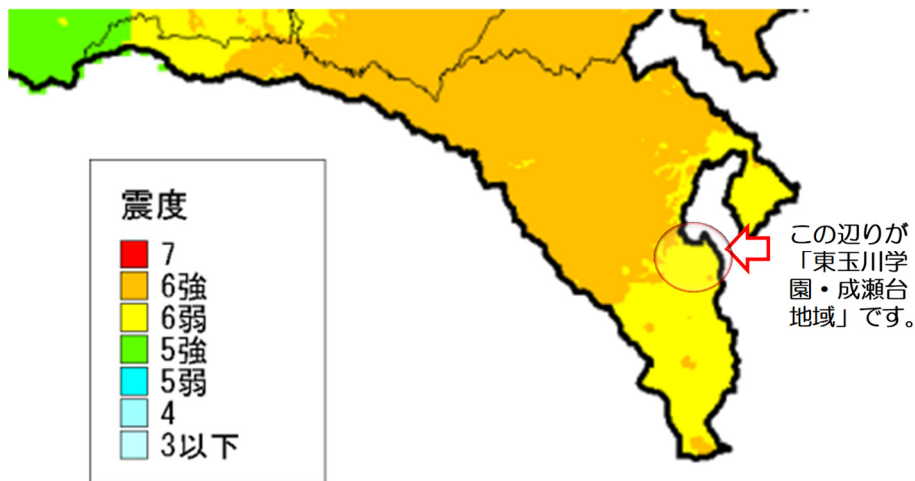
1) 想定する地震（出典：町田市地域防災計画）

想定される震源	東京都多摩地方（多摩直下地震）
規模（マグニチュード（M））	M7.3（最大震度7）
想定される町田市の揺れ（震度）	市域の北部～中央部：震度6強 市域の南部：震度6弱
想定される東玉川学園・成瀬台地域の揺れ（震度）	東玉川学園・成瀬台地域はおおむね震度6弱の揺れが想定されているが、個々の住宅の立地によっては震度6強の揺れもある

2) 町田市の被害想定概要（出典：町田市地域防災計画）

項目	被害規模	備考
建物の全壊棟数	3,931 棟	原因は、ゆれによるものが大部分である
火災延焼による焼失棟数	3,324 棟	ゆれ等による倒壊建物との重複を除いた場合
死者の数	267 人	死者および負傷者の主な原因は、ゆれ、液状化による建物被害および火災である
負傷者の数	4,278 人	
避難者数	92,758 人	総数
	52,939 人	建物被害による避難人口
	39,819 人	ライフラインの支障による被害（断水）を受けた被災者のうち、水・食糧等の物資を避難施設へ求めると見られる人口
その他の被害	停電率 11.4% 固定電話不通率 3.2%、 上水道断水率 34.9% 下水道管きよ被害率 25.9%	

3) 多摩直下地震による町田市内の地震動分布 (出典：町田市地域防災計画 資料編第四章)



参考 震度と揺れの状況 (気象庁資料より抜粋)

6弱

【震度6弱】

- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

耐震性が高い 耐震性が低い

6強

【震度6強】

- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや倒れるものが多くなる。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。

耐震性が高い 耐震性が低い

【6弱の説明】	【6強の説明】
<ul style="list-style-type: none"> ● 立っていることが困難になる。 ● 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。 ● 壁のタイルや窓のガラスが破損、落下することがある。 ● 耐震性の低い木造建物[※]は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 這わないと動くことができない。飛ばされることもある。 ● 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。 ● 耐震性の低い木造建物[※]は、傾くものや倒れるものが多くなる。 ● 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生したりすることがある。
<p>※：耐震性は建築年代の新しいものほど高い傾向があり、おおむね昭和56年（1981年）以前は耐震性が低く、昭和57年（1982年）以降には耐震性が高い傾向がある。</p>	

【問い合わせ先】 本会報の内容についての疑問やご質問、ご意見などございましたら、下記メールアドレスまでご連絡ください。頂いた情報は今後の会報発行の参考にさせていただきます。

info-tamanaru-hinan@jcom.zaq.ne.jp

成瀬台小・中学校避難施設運営会議とは

成瀬台小・中学校避難施設運営会議は、成瀬台小学校と成瀬台中学校を避難施設とする9つの自主防災組織の代表者、成瀬台小学校と成瀬台中学校の施設管理者（校長）、当避難施設職員である町田市避難施設指定職員、町田市防災課の職員で構成されています。

当運営会議は、大災害（震度6弱以上の地震）時の避難施設開設・運営に関する諸課題の解決、避難施設運営に必要な資器材の備蓄、避難施設開設・運営マニュアル・手順書・帳票類の作成と更改、避難施設の開設・運営を行う実働部隊づくりと開設・運営訓練、総合防災訓練等を担っています。

9つの自主防災組織：

- | | | |
|----------------|----------------|----------------|
| 玉川学園第六地区自主防災隊 | 東玉川学園自治会自主防災隊 | 東玉川学園睦会 |
| 成瀬台一丁目自治会自主防災隊 | 成瀬台二丁目自治会自主防災隊 | 成瀬台三丁目自治会自主防災隊 |
| 成瀬台四丁目自治会自主防災隊 | 北成瀬台自治会防災チーム | 学園成瀬自主防災隊 |